

一橋大学

スポーツ研究

2014

Vol.33

広がる「スポーツと社会」研究

目次

はじめに	坂 なつこ	1
I. <論考>		
1. 「スポーツと開発」NGOの「土着化」に関する研究 —レソト王国におけるKick4Lifeを事例として—	鈴木 直文	3
2. 2012年ロンドンオリンピック・パラリンピックの「レガシー」をめぐる 政策的言説の創造と政策実践の展開—大ロンドン市における「スポーツ ・レガシー」に関する取り組みに着目して—	金子 史弥	16
3. 余暇研究におけるレクリエーションとレジャーの関係 —「余暇善用論」の視点から—	青野 桃子	34
4. 戦時期における市町村民運動会—明治神宮地方大会の考察—	鈴木 楓太	45
5. IOCにおける「完全な国歌国旗廃止案」の消滅(1973-1974)	黒須 朱莉	61
II. <研究ノート>		
1. スポーツ文化の価値と可能性 —1960~70年代の国際的な宣言・憲章を中心に—	坂上 康博	72
2. アイリッシュディアスポラとスポーツ研究にむけて —アイルランド共和国におけるディアスポラ政策の現状と課題—	坂 なつこ	80
3. 企業スポーツ休廃部要因の実証分析に向けて —実証分析の必要性和仮説の検討—	中村 英仁	86
4. 図書紹介: Robert Pruter 著『The Rise of American High School Sports and the Search for Control, 1880-1930』	中澤 篤史	92
III. 特別報告		
1. 戦後のドイツのスポーツ施設の推移	市場 俊之	99
2. 新結合: スポーツ史における企業家精神	ディルウィン・ポーター	120
IV. 研究会報告記録		
1. オリンピックと遺産—『〈オリンピックの遺産〉の社会学』から—	鬼丸 正明	133
2. シドニー・オリンピック・パークの歴史と現状	尾崎 正峰	135
V. 2013年度研究会日誌/執筆者紹介		141

編集後記